さんかく情報局

～さわやかな自己表現～

アサーティブ・トレーニング vol.8

あなたは、自分の気持ちを素直に相手に伝えることができていますか。

どうして女性に必要なの

アサーティブとは「自分を一歩前に押し出す、前向きに率直に表現する」こと。

このトレーニング（自己主張訓練）は、人種差別撤廃運動や女性解放運動で、社会的弱者が自分の権利を認識し、主張するための有効な方法として活用されてきました。

女性は「女らしく」自分を出さないほうが賢明であり、それができないと女性として未熟で「性格」や「能力」に問題があるといわれてきました。

しかし、女性は性役割（女らしさ）の規制に縛られており、社会的弱者の立場に置かれやすく、自己表現や主張をしない習慣を身につけてきました。そのため、表現方法がわからなかったり、自己主張することに罪悪感を覚えてしまうのです。

伝えてみよう 自分のき・も・ち

自己主張は相手を言い負かすことではなく「相手」と「自分」の関係が対等で、お互いの権利が尊重されているところから始まります。

うまく話すことの前に、自分に気付き、自分をたいせつにすることも学びます。

講座をとおして自己主張のポイントなどを学び、自分の気持ちを相手に伝える一歩を踏み出してみましょう。

別表 ●講座内容

日程	講座内容
9月29日	アサーティブ・トレーニングとは
10月 6日	自分の傾向を知る ～女らしさの落とし穴～
10月13日	さわやかな自己主張 ～心の基本的人権～
10月20日 10月27日	ロール・プレイ実習をやってみよう

開催日時 9月29日から10月27日までの毎週水曜日（全5回）10時30分から12時30分まで（参加無料）

対象・定員 女性のみ8人

※全回参加できる人（先着順・最少開催人数3人）

託児 無料（9月25日までに申し込みが必要です）

講師 女性相談員

会場 男女共同参画センター ラポール図書室

申し込み・問い合わせ 男女共同参画センターラポール ☎(324)2800

第6回 食卓の向こう側講演会

市では、男女共同参画の推進に取り組む市内団体の活動を支援しています。今回は、志摩男女共同参画ネットワークが開催する講演会を紹介します。

志摩男女共同参画ネットワークでは、元気な子どもを育て、高齢者が健康で長生きできるよう、口からの健康術についての講演会を開催します。

子どもから高齢者までお世話になる口。その口を「病の入り口」にせず「命の入り口」にするためには、どうしたらよいのでしょうか。参加は無料、みなさんの来場をお待ちしています。

日時 9月12日（日）13時30分から16時まで

場所 男女共同参画センターかがやき（可也公民館体育館北側）

定員 100人（参加費無料）

講師 山口知世さん（金丸歯科医院歯科医師）、佐藤弘さん（西日本新聞社編集企画委員会）

演題 命の入り口、心の出口

託児 無料（9月9日（木）までに申し込み）

問い合わせ 志摩男女共同参画ネットワーク事務局（武氏） ☎090(6291)9787

大好評だった昨年の講演会

人権コラム

文内堀（ぶんないぼり）

糸島市人権・同和教育研究会「ムラ」の文化研究部会 山田 泰生

現在の羅漢川、水を満々とたたえる

二丈松末（ますえ）の「文内堀」

英語のライバル［Rival］は「同じ川（リバー［River］）の水を使う者」という意味のラテン語が語源。もとは「同僚・仕事仲間」という意味でしたが「競争相手」の意味に転じました。

古来、水をめぐっては（特に農業）たびたびトラブルが発生していたからです。

二丈松末、国道202号から程近い上新川橋付近（一貫山排水機場近く）は、川の交差点のような場所。

東と南、つまり内陸からの流れが交わり、西と北の海に流れます。長さ150mほどの、北の加布里湾へ注ぐこの流れが「文内堀」と呼ばれる人工的な水路です。

悲願の改修工事

安政2（1855）年、松末村の蒲池（かまち）文内は父から引き継いだ悲願の羅漢（らかん）川の改修工事を成し遂げ、この堀を完成させました。

松末の地は海面との高低差が小さく、低湿でした。そのため、満潮時には海水が逆流し、大雨が降れば川の水があふれ、稲作に大きな被害を与えていました。このため、羅漢川が松末地区に入る途中に放水路を造る治水工事が必要でした。

今なら市や県によって市民の利便・安全性のため、即座に実施されそうですが、江戸時代には簡単に事は運びませんでした。二丈の地は歴史的に、藩が複雑に入り乱れていたからです。

極めて困難な調整

当時、松末村は中津領、隣接する浜窪村は対馬領。水害は主に松末に起こりましたが、水害を防ぐための放水路は主に浜窪に造らなければならなかったのです。

藩が違うということは、国が違うことと同じで「お隣同士助け合う。困ったときはお互いさま」という論理が通用しにくいのです。

松末では、放水路が絶対必要で、周辺の地形から放水路の場所はここ（浜窪）しかないと考えました。

しかし浜窪から見れば、松末の利益のために浜窪の耕作地を犠牲にしなければならず、両者の調整が極めて困難でした。

ライバルの意味

松末村の庄屋、蒲池平次郎は治水工事を発案し、浜窪村の庄屋と交渉を重ねましたが、宿願を果たすことはできませんでした。

父の遺志を継いだ文内が調整に成功し、工事が行われました。困難を乗り越え、完成させた蒲池文内に由来し、この水路は「文内堀」と呼ばれています。

放水路の完成は、松末のみならず、浜窪の農地を守ることにもなりました。ライバルの意味を、そもそもの語源でとらえ直したくなるようなお話です。

手話教室

（初心者コース）参加者募集

10月から人権センターで「手話教室」を開催します。講座は、初めて手話に接する人を対象にした内容。

興味がある人、習いたいけど難しいのではと考えていた人、みなさんの参加をお待ちしています。

開催日時 10月から来年3月までの第2・4木曜日 14時から14時50分まで

場所 市人権センター

参加費用 2000円

募集人数 20人程度

申込期限 9月30日（木）

申込方法 市人権センターの窓口または電話、FAX、Eメールで申し込み

申し込み・問い合わせ 市人権センター ☎(322)5095 FAX(322)5096 E-mail jinken@city.itoshima.lg.jp